

2026年度 入試問題分析シート

東北大学

前期日程

科目

化学

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	経済(理系)・理・医 600, 保健 450, 歯 500, 薬 850, 工 750, 農 700 (いずれも2科目での配点)	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

総論

従来どおり大問が3題(1 理論 2 無機 3 有機)出題された。総じて例年通りの内容であった。1の理論化学で取り組みにくい問題が多かった。3の有機化学は、ここ数年難易度のやや高めの問題が出題されていたが、今年はやや解きやすい問題となっていた。
なお、導出過程を記述させる問題および論述問題はいずれも出題されなかった。

特記事項・トピックス

水酸化鉄(Ⅲ)の化学式を書かせる問題が出題された。

合格への学習対策

基本理論や重要知識をしっかり把握して学習を行うこと。論述型の問題に対するトレーニングも必要である。
また、有機化合物の構造決定は、近年はそれほど難解ではないが、伝統的に難解な問題が出題されることが多く、かつ、過去問の題材と同じ題材や反応を出題することもあるので、前期及び後期の過去問を解くなど十分な対策が必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述 選択	化学	理論	〔Ⅰ〕ケイ素の化合物を題材に、同位体をテーマとした総合問題。 〔Ⅱ〕炭酸カルシウムを題材とした、化学平衡の総合問題。問題文の誘導に従い、解答することが要求されるが、類似問題の経験があれば有利であった。	やや難 やや難
2	記述 選択	化学	無機・理論	〔Ⅰ〕水素をテーマにした知識および計算問題。 〔Ⅱ〕遷移元素に関する典型問題。 〔Ⅲ〕金属イオンの分離に関する基本問題。	易 易 易
3	記述	化学	有機	芳香族エステルの構造決定問題。1, 3-ジエンへの二種類の付加反応に関する考察が含まれていた。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。